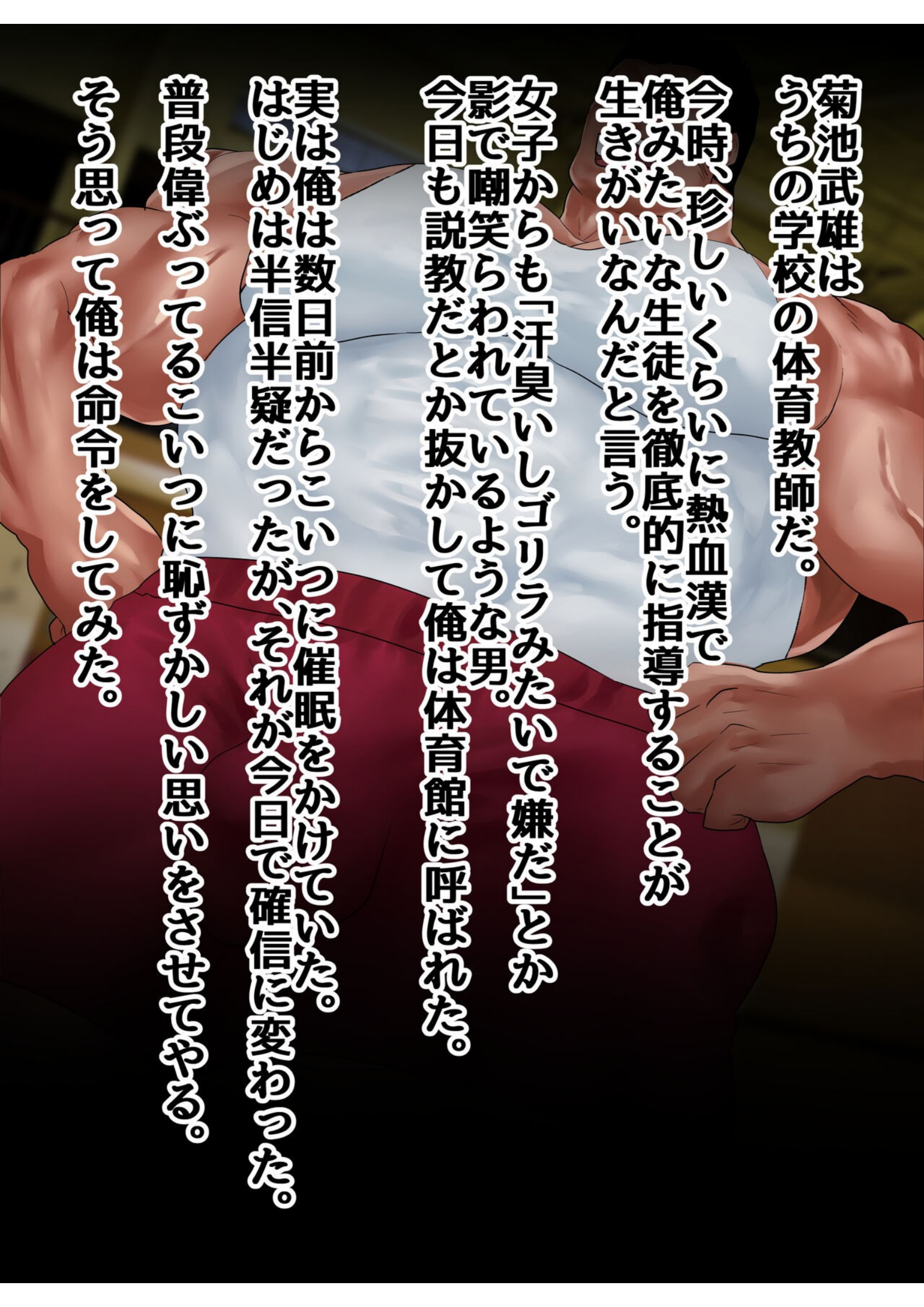




菊池武雄は
うちの学校の体育教師だ。

今時、珍しいくらいに熱血漢で
俺みたいな生徒を徹底的に指導することが
生きがいなんだと言う。

女子からも「汗臭いしゴリラみたいで嫌だ」とか
影で嘲笑らわれているような男。
今日も説教だとか抜かして俺は体育館に呼ばれた。

実は俺は数日前からこいつに催眠をかけていた。
はじめは半信半疑だったけど、それが今日で確信に変わった。
普段偉ぶってるこいつに恥ずかしい思いをさせてやる。
そう思って俺は命令を試してみた。

「ん…なんだ…
なんで俺はここに…。」

催眠は大成功だ。俺は心の中で
ガッツポーズを取った。

「やだなあ、先生。
今日は特別授業をしてくれるからって、
俺を呼んだんじやないですか。」

「おっ、そうだったな！
俺としたことがすっかり忘れてたよ
すまんすまん！」

そういうと先生は着ている服を脱ぎ、俺の前の前で
全裸でガニ股ポーズを取った。



「ほっ♡ほっ♡これはあ、チンポ体操と言うんだっ！
こうやっておちんちんをブラブラさせてっ
下半身を鍛えていくぞっ！」

「何をしてるんだ！お前も早くチンチンを出して先生とチンポ体操をしなさいっ！男同士、チンポで語り合えば悩みだって解決するんだっ！チンチンは素晴らしいものなんだぞっ！」

「何言ってんすか？そんなバカみたいなことするわけないじゃないすか
それに先生ってなんて言われてるか知ってます？
汗臭ゴリラですよ？あんたは変態のくっせえゴリラなんだよ！」

ウホッ
ウホッ

ウホッ

ドムッ

ドムッ

カッ

カッ

カッ

「んほおおおおおおおッ♡」
先生は雄たけびを上げると拳を握りしめ、
自分の胸をたたき出す。
俺の言うことをなんでも聞く玩具だ。
次はゴリラの真似をしてみた。

「ほら、先生？あなたは
なんですかあ？」
にやにとスマホで先生を撮り続けながら
俺は尋ねる。

「んほ♡ウホオオッ♡ゴリラっす！俺は
変態汗臭ゴリラっす♡今まで偉そうに
説教垂れてすんませんでしたあッ！
くっせえくっせえ臭いをまき散らすゴリラの分際で
教師なんて名乗っていましたあ♡うほ♡ウホオオオオッ！！」

いっ
アッ
ハッ

アッ
アッ
ハッ

「それじゃあ先生、また特別授業
お願いしますね。」

「んほおおんっ♡じゅぎょうなんてえ
どうでもいいからっおちんちんっ♡おちんちんっ♡
おちんちん見てくれえ♡せんせいのちんちんっ♡」

壊れた先生はそう言いながら腰を振り続ける。

そうだが、授業なんてもうどうでもいいか。

最高のおもちやを手に入れたのだから。

「ギヤハハハッ！ほんと最低だなッ！」
俺はついに堪えきれずに笑いだしてしまった。

「ゴリラっていうより犬ですよ、犬。
足にしがみついて必死に腰降ってる犬みたいですよ。」

「んほおおおおッ♡そうです、いぬですううッ！
おれはいぬころだったあああッ！
めすところびできないみじめないぬですう♡
だからこうやってこしをふってわんわん♡こうびしたいわん♡
こうびをしたいわん♡はっじょうしてるいぬですううッ♡」

カ
カ
カ

カ
カ
カ

カ
カ
カ

カ
カ
カ











